

「門掃き」(中2)の授業について

1 はじめに

表題の内容で授業をするということで相談を受けました。「道徳の読み物資料では主人公の心情を読み取るのではなく、資料から道徳的価値について考える。」ということをもとに授業展開を考えました。1時間の授業で出す発問は次の通りとしました。

<読み物資料>

内容の理解を深める補助発問を2～3つ

資料から道徳的価値について考える発問を1つ

<生活の振り返り>

読み物資料を踏まえて生活の振り返りから道徳的価値を考える発問を1つ

相互扶助や思いやりの心について考えさせたいという相談者の意向から別案も考えました。

2 授業展開

(1) 教材名 門掃き / (2) 主題名 美しいしきたり

(3) 内容項目 C-(12) 社会参画、公共の精神

(4) ねらい 社会連帯の根底にある相互扶助や思いやりの心を理解し、よりよい社会を生み出す主体者として行動しようとする態度を養う。

(1)～(4)は指導書より

(5) 授業展開

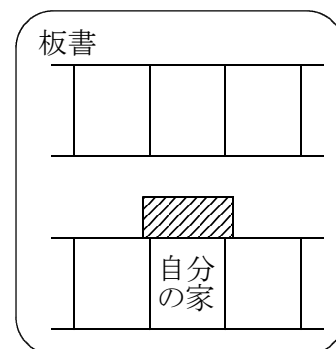
<資料からの発問>

発問1 「門掃き」って何ですか。」

→ ペアで交流する。全体で交流する。

※ p151 ㉒13の記述「自分の家の前の道幅半分と、家の幅にお隣に分一尺(約30cm)だけをきれいにすること。

教師が図を板書して確認しても良い。



発問2 p151 ㉒17～ 「加藤さんも、まるで自分の家の掃除であるかのように、真心込めて、うちとの境界を越えて掃いてくれている。しかもけっして30cmよりこちらに入って掃除をすることはない。」

加藤さんは30cmよりこちらに入って掃除をしなかったのは、なぜですか。

→ ペアで交流する。全体で交流する。

※ ①門掃きのしきたりだから

②相手のところまで入り込むのでは相手を一人前に扱っていないことになるから。

発問3 p152 ㉒4～ 「だが、不思議なことに、加藤さんはちょっとお向かいさんの家に視線を上げたあと、そのまま向かいの家の前まで掃除を続けた。」

加藤さんは、なぜ、向かいの家の前まで掃除をしたのですか。

→ ペアで交流する。全体で交流する。

※ お向かいさんは先週から入院しているから。

困ったときはお互い様だから。

追加の発問 「入院ではなく、家族旅行だったら、どうでしょうか？」

発問4 「門掃き」をすることで、どんないいことがあるか考えよう。

→ 「班で解決しましょう。」 道徳ノート「かんがえてみよう」に書く。

→ 全体で交流する。

※相手を尊重するという気持ちを持つようになる。近所の人との関わりが生まれる。深まる。

困ったときはお互い様という気持ち生まれ、そういった行動が行われる。

地域につながりができる。地域が明るくなる。

門掃きをきっかけで挨拶を交わすことになる。

※何を書いていいのかわからない生徒もいるだろうから、班で交流を行った後に自分の考えを書く。

<生活の振り返りからの発問>

発問 発問4で出された意見に関わって、身近にあることや、それに関わってできそうなことに、どんなことがあるか考えよう。

※ 発問4で出された意見とは、

「相手を尊重するようなことがら」

「近所の人との関わりが生まれたり深まったりするようなことがら」

「困ったときはお互い様ということがら」

「地域とのつながりができる、深まることがら」

こういった暗黙の了解、ルール、行為

→ 班で交流してから、道徳ノート「自分に+1」に書く。

→ 全体で交流する。

※何を書いていいのかわからない生徒もいるだろうから、交流を行った後に自分の考えを書く。

すでに自分の考えがある人は、交流の内容も踏まえて、自分の考えを書く。

(6) 授業展開 一別案一

<資料からの発問>

発問3までは同じである。

発問4 p152 45～ 「掃除に出る直前の僕へ母がかけた、あの言葉の本当の意味を。」

あの言葉の本当の意味とは何ですか。

→ ペアで交流する。全体で交流する。

※ あの言葉とは、「ちゃんとお隣さんとの境も掃くんやで！ 挨拶もしてな！」

→ 相手を一人前に扱うこと。困ったときは助け合うこと。

<生活の振り返りからの発問>

困ったときは助け合うことに焦点を当てる。

教師：困ったことを助け合うには、目配りや気配りが必要です。

教師の目配り、気配りの体験談を話す。

発問 あなたが体験した「目配り、気配り」について書こう。そのとき、どんなことを思いましたか。今、そのことをどう思いますか。

→ 班で交流した後、道徳ノート「あなたに+1」に書く。全体で交流する。

振り返り 「あなたにとって、気配り、目配りとは、どんなことですか。」

→ 班で交流した後、振り返りに書く。

→ 時間があれば、数名に発表してもらう。

※“発問”では、経験したことを書く。“振り返り”では、これからのことを書く。

3 おわりに

「本当に全員が取り組んでいるか」というのが最近の私のテーマです。自分の考えを書くとき、課題の内容は理解できているが、何を書いているのかよく分からないという生徒がときどきいました。友だちに意見を聞けば、そういうことを書けばいいのか、と分かるはずですが。自分の考えを書いた後に交流する場合、交流が終わったときには自分の考えを書く時間がありません。少なくとも、私が参観させていただいた授業では、交流の後にもう一度自分の考えを書く時間を取っていないことがほとんどでした。何を書いていいのか分からなかった生徒は、結局、何も書けないままに終わっていました。交流してから自分の考えを書くというスタイルにすれば、全員が書けるのではないのでしょうか。ぜひ「意見を交流してから、友だちの意見も踏まえて、自分の意見を書く。」という実践をしていただき、成果と課題を共有したいものです。